

環境新聞

発行所 環境新聞社

「コトづくり」拠点の 新工場が完成

エムダイヤ、来年4月本格稼働目指す

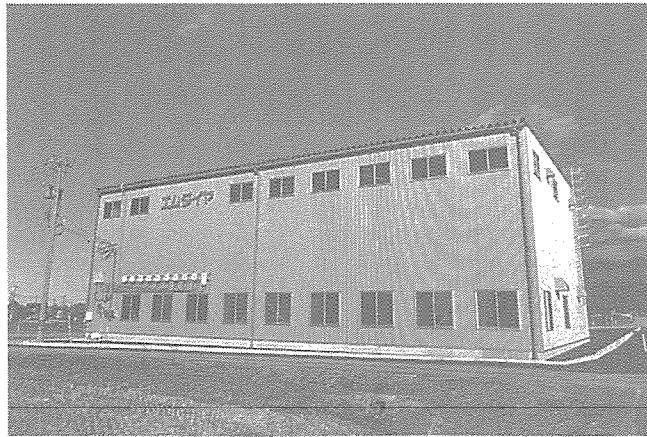
リサイクル機械の製造・販売などを手掛けるエムダイヤ(富山県滑川市)が、富山県立山町で建設を進めていた新工場

がこのほど完成した。「立山第一工場」として、来年4月頃をめどに本格稼働させる。

同社は分離・破碎機「エコセパレ」、切断機「エコカッター」、両面基板剥離機「エココレクター」など、さまざまなりサイクル関連機械を独自技術で開発している。新工場はこうした「モノづくり」はもちろん、それに伴ってまらずリサイクルの輪を広げる「コトづくり」の拠点と位置付け、今後業容拡大を図っていく考えだ。

新工場は北陸自動車道の立山インターチェンジに隣接しており、敷地面積は約1920平方メートル。建屋は3階建て相当で、延べ床面積は約4900平方メートルとなっている。同社

富山県立山町に完成した新工場



強化を図っていく方針だ。太陽光発電(最大発電容量:76キロワット)も設置している。

同社は近年、電線メーカーとリサイクル業者間でアルミニウム電線をアルミ原料に再資源化する取り組みの仲介事業や、使用済み自社製リサイクル機械を修繕・再生するアップサイクル事業などを開始しており、新工場の稼働を機にこうした新規事業もさらなる拡大を図る。また、IoTなど新技術の実証にも取り組み、新たな資源循環システム構築の拠点としていく考えだ。